

11.23 水曜 第31回 名曲・午後のオーケストラ

梶 大也(九州大学大学院 博士後期課程)

「名曲・午後のオーケストラ」は「クラシックの演奏会をより多くの方々にお楽しみいただきたい」という趣旨のもと、2015年にはじまった。古今東西の名曲に加え、舞踊や講談とのコラボレーション、映画音楽の特集を経て、今回、初めて邦人作曲家の曲を、しかもそのみで固めたプログラムとなった。これは、より多くの人が、より深くクラシック音楽を楽しみ、知り、親しむことにつながるだろう。

伊福部 昭(1914-2006)

SF交響ファンタジー 第1番

強烈なユニゾンが演奏会の始まりを告げる。ゴジラ、キングコング、バラゴンといった怪獣たちの進撃歌、哀歌、挽歌が続々と現れる。咆哮する金管と打楽器、かき鳴らすハープ、群集する木管と絃(伊福部の主著に『管絃楽法』がある)はまさに映画さながら。細々とした説明よりも、目の前のオーケストラが鳴っているのを全身で感じるのが良い。

伊福部は1914年、北海道に生まれた。幼少期にアイヌの音楽に親しみ、ストラヴィンスキー、ラヴェル、ファリャを範に作曲を独学した。土俗的でユーラシアへ進む彼の音楽は、高度成長を進める戦後社会にまつろわぬ怪獣たちの歩みと響き合う。

作曲／1983年 初演／1983年8月5日 日比谷公会堂 汐沢安彦 東京交響楽団 編成／フルート2、ピッコロ、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、バス・クラリネット、ファゴット2、コントラ・ファゴット、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、大太鼓、合わせシンバル、吊るしシンバル、小太鼓2、タムタム2、トムトム3、コンガ、ハープ、ピアノ、弦5部
使用楽譜／東宝ミュージック

廣瀬周平(廣瀬量平・事務所)

廣瀬量平(1930-2008)

朝のセレナーデ(弦楽合奏版)

廣瀬量平は1930年北海道函館生まれ。古くから西洋に向けて開けた港町であり、その老舗レストランが生家という環境で、普通にロシア人イギリス人家族が隣人であり、強く西洋や和洋折衷を肌で感じ、己の日本人性も意識する中、モーツァルトやベートーベンを蓄音機がすり減るまで聞く少年時代だった。音楽の修行は徹頭徹尾西洋音楽の系列であり、東京藝大の池内友次郎の元でエクリチュールや分析法を完全習得することを厳命された。その後西洋楽器、邦楽器問わず多くのジャンルで多くの作品を成し、多くの再演を生んでいくことになる。

北海道出身ということで伊福部昭との比較をされることが多かったが、廣瀬は生前「内なる土俗性や日本人性を己の信じるままに昇華していく方向もあるし、西欧人に日本の土俗性や日本人性を聞かせるというのはどういうことかを振り返る方向もある。ならばそれを西洋楽器で作曲するというのはどういうことかを含めて掘り下げたい。」と語っていた。

「朝のセレナーデ」は1998年にコンサートマスターズ・クラブオブジャパンのために書かれた三楽章のオーソドックスなソナタ形式からなる弦楽合奏曲であるが、好評につき再演希望が多く、のちにフルート改定と校訂を経てオーケストラでも再演が続いている。難解な無調性音楽が持てはやされる中、批判を覚悟して全編調性で書いたチャレンジングな作曲だったと周囲に語っている。美しいメロディと自身の本流たるエクリチュールを駆使した展開が心地よい、ドラマを見たかのような後味を感じさせる楽曲である。初演以来好評で、フルートオーケストラ版にも編曲、演奏されている。

本日は今演をきっかけに2021年に山上友佳子／廣瀬量平・事務所が新たに校訂した版を使用する。

作曲／1998年 初演／1998年6月12日 東京オペラシティ コンサートホール コンサートマス
ターズ・クラブオブ・ジャパン 編成／弦5部
使用楽譜／廣瀬量平・事務所

梶 大也(九州大学大学院 博士後期課程)

外山雄三(1931-)

管弦楽のためのラブソディ(改訂版)

外山は1931年生まれ。作曲家であり、指揮者でもある。この曲は外山の代表作で、1960年、NHK交響楽団の海外公演のためのアンコール用に書かれた、「あんたがたどこさ」、「ソーラン節」、「炭坑節」、「串本節」、「信濃追分」、「八木節」で構成されるメドレーである。

東京での初演は民謡の直接的な使用もあってか戸惑いをもって迎えられたが、海外公演では爆発的な人気を誇った。時あたかも、55年体制の成立と1964年の東京五輪の中間地点。ラブソディはその顔となった。

作曲／1960年(2001年3月改訂) 初演／1960年7月 東京都体育館 岩城宏之 NHK交響楽団
編成／フルート3(ピッコロ2持替)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、大太鼓、団扇太鼓、締め太鼓、ボンゴ、ウッドブロック、クラベス、拍子木、チャンチキ、鑼、鈴、ハープ、弦5部
使用楽譜／全音楽譜出版社

武満 徹(1930-1996)

「3つの映画音楽」より『ワルツ』

ここまでの作曲家たちが田舎とか土俗という言葉で説明されうるなら、武満は都会的でスタイリッシュだ。1930年に生まれ、敗戦間際に聴いたシャンソンがきっかけで作曲家を目指した逸話は象徴的である。

『ワルツ』は1966年の映画『他人の顔』(安部公房原作、勅使河原宏監督)のために書かれ、後に「3つの映画音楽」の3曲目として編曲された。切々とした主部、朗々たる中間部を持つ。

映画には原爆の傷跡、ヒトラーの演説の効果音の使用、経済復興に伴う大衆化、再軍備といった、戦後と戦前が入り混じる描写が随所に挿入されている。前田美波里が岩淵達治の詞でこのワルツを歌うピアホールは、新橋の「ミュンヘン」である。

作曲／1966年 初演／1995年3月9日 シュタード(スイス) ウィリアム・ボートン イングリッシュ・
ストリング・オーケストラ 編成／弦5部
使用楽譜／シヨット・ミュージック

松下 功(1951-2018)

幻想曲「通りゃんせ」

松下は他の作曲家たちより一回り以上若い1951年生まれ。東京藝術大学、ベルリン芸術大学に学んだ。その作風には冷戦、科学技術と地球環境といった戦後の新しい問題が影響した一方、地域との関わりもみられる。たとえば、1990年の交響詩「筑後」は九響の2回目の東京公演で演奏された。

「通りゃんせ」は同名のわらべうたを基に、旋律はほぼそのまま、管弦楽法の色付けで様々な装いを見せる。便宜上、6つのパートに分けて解説する。

- ①足音を思わせる和太鼓の響きが、即興的に崩した旋律を導く。
- ②ヴィブラフォンとチェロが動きを作り出し、イングリッシュホルンが旋律を奏でる。他の楽器は不協和の弱音で緊張感を高める。
- ③動きを作る役割はチェロとヴィオラが、旋律はヴァイオリンが担う。背景では木管楽器がポルタメントで線的な動きを引き継ぎあう。
- ④和太鼓をトリガーに、チャンチキ、カウベルが急速に盛り上がりを作る。
- ⑤音量は落ち着くが、勢いはもう止まらない。奏者の拍手には「太鼓を掌で叩く」と指示がある。斉唱の裏ではトランペットが「さくらさくら」を吹き、和太鼓の即興を経て次のパートに到達する。
- ⑥テンポを落とし、旋律、対旋律、フルートとピッコロとヴィブラフォ

ンによる音列が鳴り続ける。最後は再びテンポを上げ、掛け声に続き、総奏で曲を結ぶ。

作曲／1999年 初演／1999年1月23日 川越市民会館 松下功 林英哲 尚美学園短期大学フェスティバルオーケストラ 編成／フルート3(ピッコロ持替)、オーボエ3(イングリッシュ・ホルン持替)、クラリネット3、ファゴット3、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、大太鼓、吊るしシンバル、タムタム、ボンゴ、カウベル、マラカス、拍子木、チャンチキ、鈴、鳴子、貝鳴子、グロッケンシュピール、ヴィブラフォン、弦5部、篠笛、和太鼓、声明(児童斉唱)
使用楽譜／ハッスル・コピー

松下 功(1951-2018)

和太鼓協奏曲「飛天遊」

独奏者かつ初演者の林英哲は1952年、広島県に生まれた。松下が留学中の1981年に二人は親しくなり、「いつか英哲の曲を書くから」と約束し、実現したのが「飛天遊」だった。

独奏は15種類の和太鼓を叩き分ける。作曲者曰く「全体は、和太鼓の自由な動きを中心に静から動へと発展」し、「和太鼓奏者の自由で鋭い感性と直感力、そして、オーケストラに求めた論理的構築性という二つの世界の融合を目指した」。便宜上、3つのパートに分けて解説する。

- ①間を持った大太鼓とコントラバスのフレーズで始まる。オーケストラには基本的に別の音が割り振られ、弦楽器の大半は滑らかに音を変化させ続ける。音の塊をクレープのように薄く流し込み、とろ火で温める、といったところだろうか。そのうちに段々と動きを帯び始める。
- ②和太鼓の長い即興に対し、オーケストラは執拗な反復(クラリネット、チェロ等)、長い音または短音連打(フルート、ホルン等)で応答する。
- ③急速にテンポを上げ、オーケストラは与えられた音群により、「激しく、和太鼓奏者の演奏に即興的に反応する」。その後は、周到な変拍子で音の塊を高馬力で駆動させる。長いカデンツァを

挟んで再度走り出し、駆け抜けた先で熱狂的な幕切れを迎える。

作曲／1993～1994年 初演／1994年7月30日 サントリーホール 現田茂夫 林英哲 新星日本交響楽団 編成／フルート3(ピッコロ持替)、オーボエ3(イングリッシュ・ホルン持替)、クラリネット3、ファゴット3(コントラ・ファゴット持替)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、大太鼓、吊るしシンバル、小太鼓、タムタム、ボンゴ、テンブルブロック、シロフォン、ヴィブラフォン、弦5部、独奏和太鼓
使用楽譜／全音楽譜出版社

※編成は演奏の都合上、異なる場合がございます。ご了承ください。